

CITY OF YOKOHAMA

# 横浜市公共事業評価【事後評価】

【教育－4】

## 市場小学校けやき分校整備事業

(旧 市場小学校第二方面校 (仮称) 整備事業)

教育委員会事務局施設部学校計画課  
教育施設課

2024 (令和6) 年11月11日

明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER

## これまでの経緯

### 1 評価状況

今回評価

評価段階	事前評価	事後評価
付議状況	平成27年度 (第2回)	令和6年度 (第2回)
意見具申	なし	
事業費	約40億円	約35.6億円
事業期間	平成28年4月～平成32年3月	平成28年4月～令和2年3月

# これまでの経緯

## 2 前回までの主な意見と対応状況

主な意見（要約）	対応	備考
<p>横浜市の小学校は学区制で原則選べないが、選択できる場合はあるのか。ある場合はどういときか。</p> <p>例えば近くに選べる学校があると、せっかく小学校を建てても、他の小学校に人気が集まってしまうことなども考えられる。</p>	<p>例えば、地域からの要望等により、両方の学校の教室数等を考慮して選択できるようにするかどうか検討する場合はある。</p>	完了
<p>10年間の暫定だとすると、他の代替地の可能性はなかったのか。</p> <p>これまでの検討経過など確認したい。</p>	<p>基本的に10,000㎡の敷地が必要。個別に所有者に確認等したが、適切な土地が無かったため、市有地のなかで関係局と協議、検討して決定した。</p>	完了
<p>暫定の学校という視点から、総事業費は一般的な小学校と比較するとどうなるか。その後の利用などをどのように考えているか。</p>	<p>一般的な小学校だと、総事業費は25億円程度だが、この学校の場合、地盤の状況により、基礎部にコストがかかる。</p> <p>10年の暫定ではあるが、教育は暫定でないため、必要な整備が出てくる。</p> <p>そのため、期間終了後の解体しやすさや解体した部材の売却等を検討している。</p>	完了

## 目的及び事業概要

---

### 【目的】

市場小学校（鶴見区）の児童急増に伴なう教室不足の解消を図るため、10年間の暫定期間とする小学校（市場小学校けやき分校）を整備しました。

## 目的及び事業概要

### 【参考】市場小学校の概要（事前評価当時）

- 所在地 鶴見区元宮一丁目13
- 創立年月日 明治6年6月6日
- 校地面積 15,194m<sup>2</sup>

- 施設状況
  - ・普通教室数 最大46教室
  - ・個別支援教室 4教室
  - ・その他：音楽室等の特別教室や  
体育館、プール、給食室等



## 目的及び事業概要

### 【事業概要】

市場小学校の児童数増加



通学区域変更・内部改修等による対応



R2年度には全ての児童を受け入れることができなくなる見込みに

関係区局によるプロジェクトで検討



令和2年4月  
元宮ポンプ所敷地の一部を占用し、分校を整備（10年間の暫定）

# 目的及び事業概要

## 【整備概要】



# 目的及び事業概要

## 【整備概要】

整備概要	
事業期間	平成30年10月～令和2年3月
開校	令和2年4月
敷地面積	8,416.55 m <sup>2</sup> (学校4,592.95 m <sup>2</sup> +グラウンド3,823.6 m <sup>2</sup> )
延床面積	7,695.32 m <sup>2</sup> (学校施設のみ)
構造	鉄骨造
規模	地上5階建て
整備諸室	普通教室：20CR 個別支援教室・特別支援教室：3CR 特別教室：7CR その他：職員室、体育館、プール、給食室等

# 要因の変化・事業計画の変更の経緯等

## 要因の変化・事業計画の変更の経緯等

### 【事前評価と事後評価の比較】

		事前評価	事後評価
事業期間		平成28年4月～平成32（令和2）年3月	平成28年4月～平成32（令和2）年3月
総事業費	総事業費 （①+②）	約40億円 （うち国費6.3億円）	約35.6億円 （うち国費6.5億円）
	①建設費	（総事業費に計上）	約32億円
	内訳 ・工事費 ・校地整備	（総事業費に計上）	約30億円 約2億円
	②解体費	（総事業費に計上）	約3.6億円 ※解体費はR12年に予定している見込み額です
建物規模		敷地面積：約8,000㎡	延床面積：7,695.32㎡ 建築面積：2,612.35㎡ 構造・階数：鉄骨造・5階建て

## 要因の変化・事業計画の変更の経緯等

### 【事前評価から事業完了時の変更点】

変更箇所	変更の主な理由	増減額
建設費減	5・6年生のみの利用を考慮し、共用部を最小限としたコンパクトな設計により延べ床面積が減少したこと等による減	約-4.4億円

# 事業の効果の発現状況

## 事業の効果の発現状況

事前評価時 推計 (H27)

※平成27年度義務教育人口推計より引用。

※平成27年度値は、5月1日現在実数値。28年度以降は推計値。

市場小	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
児童数	946	1,073	1,226	1,428	1,573	1,712	1,800
学級数	29	32	35	40	44	48	50

市場小学校の教室を内部改修等で最大まで増やしたとしても46教室であり、事前評価時点の（平成27年度推計）において、令和2年度（平成32年度）から教室不足になると見込まれていたため、新たに市場小学校けやき分校を10年間の暫定小学校として整備する計画としました。

## 事業の効果の発現状況

令和6年5月1日までの実数値（各年5月1日現在実数値）

分校開校

市場小	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
児童数	952	1,030	1,161	1,307	1,383	1,066	1,064	994	931	845
学級数	29	32	35	38	40	30	30	29	28	26
けやき分校	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
児童数	—	—	—	—	—	409	463	518	529	505
学級数	—	—	—	—	—	12	13	14	14	14
市場小 +けやき分校	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
児童数	952	1,030	1,161	1,307	1,383	1,478	1,527	1,512	1,460	1,350
学級数	29	32	35	38	40	42	43	43	42	40

# 事業の効果の発現状況

## 1 教室不足の解消

当初の検討では、児童数の急増による教室不足への対応が主な目的となっていました。児童数の実数値をみると、当初検討時の推計値よりも小さく推移している状況です。

現在は、急激に需要が増加している個別支援学級の児童への必要な教室数の確保に対応するため、整備した教室を有効に活用できています。

児童数の急増による必要な給食数の増加での設備不足など、教育上必要な設備の不足についても、10年間で暫定期間とする小学校を新規に整備したことによって解決しました。

## 事業の効果の発現状況

### 【学校の運営等】

通常の学校の分校とは異なり、市場小学校本校を1～4年生、分校を5～6年生が使用という形で運用しています。

本校・分校と離れていることで、全校行事や集会の実施方法、職員会議の開催方法などで課題がありましたが、運動会などの学校行事を午前・午後に分けて本校で実施する分散開催や、朝会・集会、職員会議などにおいてICTを活用し二元中継を行うなど、運営上の工夫により対応しています。

# 事業の効果の発現状況

## 2 施設面

### (1) 安全、安定性、快適性

増加した児童の受け入れに必要な普通教室、特別教室、校庭、体育館、給食室等を確保できました。

### (2) 将来の用途変更への対応

10年間の暫定利用後は原状回復予定のため、解体のしやすい鉄骨造を採用しました。

### (3) プール施設等の合理化

近隣で利用できる民間の施設等がなかったため、合理化については実施していません。

# 事業の効果の発現状況

## 2 施設面

### (4) コスト縮減の取り組み <コスト縮減額：約-4.4 億円>

今回整備したけやき分校は5、6年生のみの利用であることから、必要な機能のみを整備しています。結果、共用部を最小限とし、コンパクトな平面計画となり、延べ床面積の低減につながりました。

また、施設構造として、解体時のコスト縮減が見込まれる鉄骨造を採用し、建物全体の軽量化が図られ、杭基礎の本数がRC造と比べて少ないなどより解体が容易となっています。今後、躯体資材の売却等も検討し、けやき分校の設置期間終了後のコスト縮減についても図っていきます。

## 事業の効果の発現状況

### 3 防災面

#### (1) 地域防災計画での位置づけ

けやき分校は地域防災拠点として指定されていません。

#### (2) 浸水想定状況とその対応

津波到達予測や内水による浸水想定はありません。

高潮による浸水想定0.5～3.0m未満、洪水による浸水想定0.0～0.5m未満の区域です。

実際に台風等の災害が起きた場合に備え、近接の保育園も含めて校舎高層階への避難訓練などを毎年実施しています。

#### (3) 土砂災害特別警戒区域指定の有無

土砂災害特別警戒区域の指定はされていません。

## 事業の効果の発現状況

### 4 地域面

地域交流室やキッズクラブのための部屋を整備しました。

### 5 環境への配慮

#### (1) 緑化

10年間の暫定利用であることも考慮しながら、中高木を織り交ぜて緑化しました。校舎屋上には、屋上緑化を整備しました。

#### (2) 建物における環境配慮

竣工時、CASBEEのAランクの取得、照明のLED化、ソーラー街灯を設置するなど、省エネルギー化を進めるとともに屋根及び床断熱の施工を実施しました。

CASBEE評価項目中の「ライフサイクルCO<sub>2</sub>（温暖化影響チャート）」では、一般的な建物を100%として比較した場合に、けやき分校のライフサイクルCO<sub>2</sub>は91%に抑えられていると評価されました。

## 事業の効果の発現状況

### 5 環境への配慮

#### (3) 周辺環境に対する効果

省エネ性能を高め地球温暖化防止に努めたほか、砂塵の抑制に配慮しました。

#### (4) その他

10年間の暫定校であることから、建物計画の工夫や鉄骨造等の採用により、使用材料の低減をはじめ、解体作業時の粉塵や騒音・振動、CO<sub>2</sub>等の削減に加えて、資材のリサイクル性を高めるなど、総合的な環境負荷の低減を図っています。

# 整備後の写真

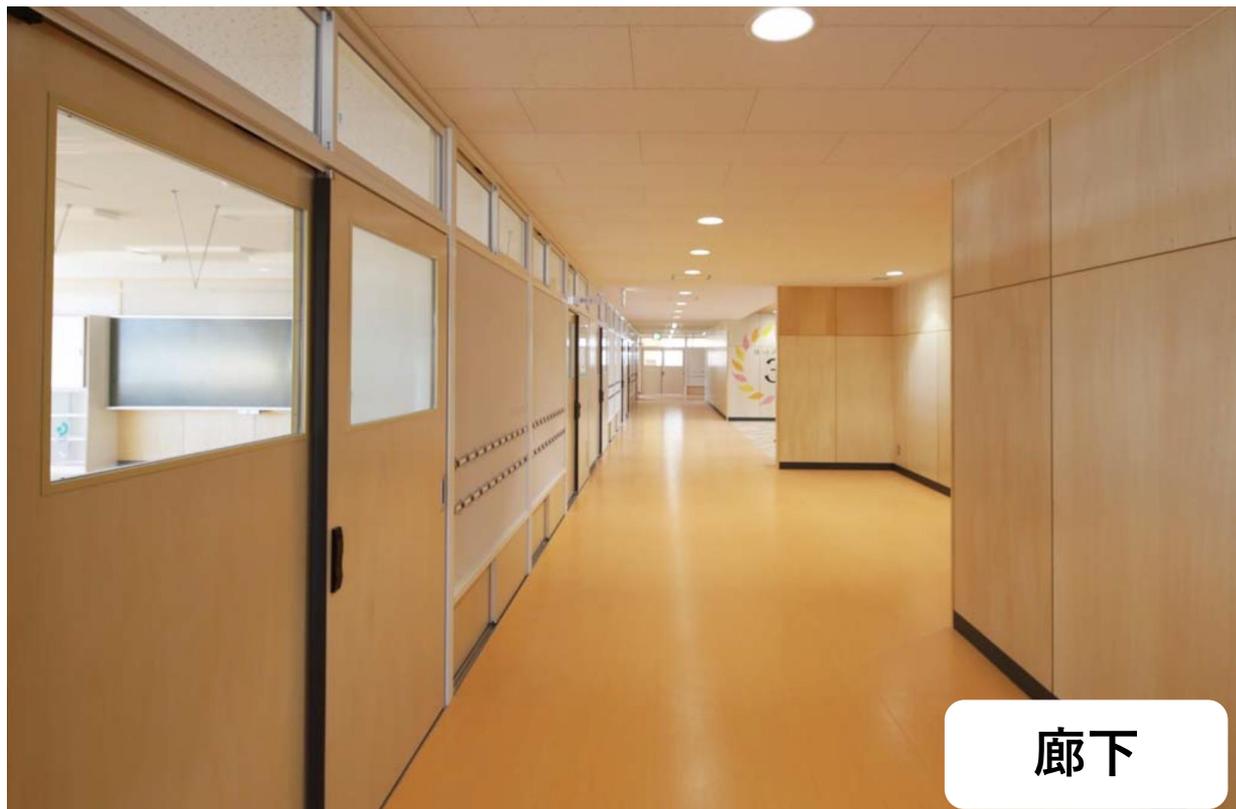
## 整備後の写真



## 整備後の写真



## 整備後の写真



廊下

# 対応方針

## 対応方針（案）

### 計画通り

改善の措置の必要性は特にないと考える

#### 【理由】

当初の目的である不足教室の解消は果たせており、また、近年の個別支援学級への需要の増加についても、対応することができています。

学校の設置期間も当初の計画通り10年間で完了（令和11年度末分校閉校）を見込めていることから、改善の措置の必要性は特にないと考えます。

#### ●R6年度 児童数・学級数推計値（一般学級）

※令和6年度義務教育人口推計より引用。  
※令和6年度値は、5月1日現在実数値。7年度以降は推計値。

市場小	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
児童数	1,350	1,260	1,147	1,004	889	799	738
学級数	40	39	36	32	29	27	25

## 今後に向けた検討項目・改善点

## 今後に向けた検討項目・改善点

---

施設整備にあたっては、義務教育人口推計の推移を見ながら検討しているところですが、近年、駅前などの利便性の良い土地に限らず、北部、臨海部における工場や事業所の撤退や築年数が経過した団地などの土地利用転換に伴い、一部地域において集中的に人口が増加している状況があります。

また、従来子育て世帯が入らないだろうと想定していた間取りに子育て世帯が入ってくるケースが見られ、以前とは需要状況に変化が見られます。

市場小学校では今後児童数が減少し、暫定小学校の期限である令和12年には本校のみで全校児童を受け入れられる見込みとなっておりますが、引き続き住宅の開発状況や児童数の推移などを注視してまいります。